

うき消防の動き

5

2009(平成21)年

No.249

(署内報)

編集・発行 宇城広域消防本部総務課
〒869-0419 熊本県宇土市新松原町159-1
TEL 0964(22)0554 FAX 0964(22)0270
Mail honbu@ukisyobo.or.jp
URL http://ukisyobo.or.jp



宇城広域消防本部救助技術大会 4月27日(月) 南消防署

当院が平成15年9月17日に救急告示医療機関の認定を受け、早や6年が過ぎようとする今日この頃ですが、この期間を所轄である宇城広域消防とともにこれまで活動してきました。これまで年間600件強の救急車の受け入れを行ってきた当院の救急体制ではありますが、そのほとんどが宇城広域消防の救急車両です。CO中毒の症例や、高エネルギー外傷の症例の初療を宇城地区の中で、2次トリージ・初期治療の後に高次の病院へと搬送し、救命し得た症例などが強く記憶に残っています。近年、疾患の多様化、医療の細分化などが進み、特殊な診療科「小児科・産婦人科等」でなくとも初療までの時間が長くなってきていることが懸念されていますが、実際、宇城地区の中でも現在4病院ある救急告示機関で治療できる診療科は限られています。宇城広域消防本部の年間救急出場件数は毎年増加している旨の連絡を受けていますが、そのうち地域内で診療を完結できている症例はさほど増えて行っていないのではないかと思います。救急隊員による的確な一次トリージの後に搬入されてくる患者に対して、現場救急隊との更なるリアルタイムのコミュニケーションをとりつつ、メディカル・コントロールを実施できる病院でありたいと願うばかりです。例えば、熊本南病院の「Jコース」などにあげられる病院前・院内の救急医療の標準化プログラムを消防本部とともに勉強しながら、地域の救急医療にともに貢献していきたいと思っています。



独立行政法人国立病院機構
熊本南病院
救急部長 高井 英二

宇城広域消防との連携について



就任挨拶



消防長
河野 富寛

就任にあたり、ひとことご挨拶申し上げます。昨年は南消防署長を拝命しておりましたが、その間、消防行政を取り巻く様々な課題や問題の存在を知らされてきました。それらを踏まえ、消防本部の今後の取り組みにつきていきたいと思います。まず最初に、私たち消防職員は公務員ですので、公僕としての立場であることの意識付けを持って頂きたいと思っています。そのためには、どうあるべきかということ職員一人ひとりが考えて頂きたいと思っています。消防に限らず、組織はそこに存する一人ひとりが練磨し向上しなければ組織全体としての向上はないと思いますので、意識を新たに持つて取り組んで頂きたいと思っています。次に、私たちの仕事の目的は、地域住民の皆様方の生命、財産の保護と災害の軽減であります。あらゆる災害を想定し、それらに対する備えと対策を講じておく必要があります。そのためには署内における危機管理体制の構築、さらに関係機関との協力体制を築いておかなければならないと思います。また、私たち広域消防の現状は、人員面、特に災害現場への対応につ

ては、十分ではないのではないかと思います。地域防災の目的を同じくする消防団と手を取り合い、今以上に連携を図りながら、地域ぐるみの防災活動や防災意識の向上に取り組まなければならないのではないかと考えておりますので、職員は消防団との連携強化をお願いしたいと思っています。その他に、予防行政の強化、救急と医療との連携体制の充実、自主防災活動の推進、災害時の指揮体制の確保、それから広域消防再編成への本格的な取り組みなどが、現状の課題として考えられております。総括的には4項目を挙げましたが、その4項目に對しまして消防行政に取り組む所存でありますので、職員の皆様方の英知と積極的な不断の努力をお願いするとともに地域住民のご理解、ご協力を求めながら取り組んでいきたいと思います。今年も5名の新職員が宇城広域消防の一員となつて頂きました。皆様方は今、夢と希望に満ちた気持ちだと思ひますが、今後は消防職員として、誇りと使命感と責任感をもって消防生活を過ごして頂きたいと思っています。本年度から女性消防職員が現場に配置されることになりましたが、これまで以上に一致協力して業務に専念して頂きたいと思ひます。最後に、職員の皆様にはご苦労をおかけすることと思ひますが、健康に十分注意され勤務して頂きますようよろしくお願い致します。就任のご挨拶とさせていただきます。

(平成二十一年四月 就任挨拶より)

緑川水防演習

4月26日



宇土市消防団が土の積み工法をそれぞれ実施し、お互いの連携を確認し合つた。

平成21年度緑川水防演習が、4月26日(日)宇土市防災センターで開催された。この演習は、国・県の河川関係機関と自衛隊・消防、緑川流域自治体で構成する「緑川水防演習協議会」が毎年、梅雨を迎えるこの時期に開催している。これから、梅雨の時期を迎えますが、洪水による被害の発生を未然に防止し、被害を最小限に食い止めるためには、関係機関との密接な連携のもとに迅速かつ円滑な水防活動を行なう必要があり、この訓練は、大雨等による出水時に備え、水防活動の保持と能率向上ならびに水防意識の向上を図り、水防体制の整備強化および水防に対する地域住民の協力と理解を求めることを目的として開催されている。この日の訓練では、美里町消防団が木流し工法、城南町消防団が繋ぎ縫

宇城救助技術大会

4月27日



ブリッジ救出を競技中の岩本班

4月27日南消防署で開催され、県大会出場に向け各個人、団体が日ごろ鍛えた技と技術を競つた。当日は、時折小雨の天気で、絶好のコンディションではなかったが、出場選手は安全管理にも注意を払いながら熱戦を繰り広げた。県大会出場は以下のとおり

■はしご登はん

林田 壘
藤村聖司
金子弘幸
甲田貴之

■ロープ応用登はん

堀 班

■ほふく救出

阿川班
竹村班
藤本班

■ロープブリッジ救出

岩本班
畠舎班

■引揚救助

田中班

城南町出初式

4月5日



城南町出初式が4月5日(日)に城南町舞原町民グラウンドで開催された。分列行進の後、団長訓示、表彰等が行われ、続いて幼年消防クラブ、各分団による通常点検、小型ポンプ操法決勝、放水競技が行われた。小型ポンプ操法の結果は次のとおり

■規律訓練

優勝 第4分団
2位 第2分団

■小型ポンプ操法

優勝 第4分団第3班(才木)
2位 第1分団第8班(めど町)
3位 第2分団第1班(永)

新職員紹介

本年度新職員として採用される5名に対し、採用辞令が交付されました。5名は、4月6日(月)から9月29日(火)までの半年間、熊本県消防学校初任科第52期生として入校し、833時間の基礎教育、実務教育、実科教育を受け、消防職員として必要な知識・技術の習得と、災害現場に適応するための体力錬成を行い、10月から消防の最前線に飛び立ちます。4月7日(火)には、宇城広域消防本部を含む熊本県内12の消防本部が、本年度新たに採用した消防職員81名(うち女性5名)の入校式が、熊本県消防学校で挙行されました。



初任科第52期を代表して宣誓を行う村上直弥消防士(熊本市消防局)



平岡 史彰
消防士

宇城の職員として働きたいという強い気持ちでずっと持ち続けたが、一度は断たれた夢でしたが、合格することができました。私のモットーは常に目標を持つことで、何事にも精一杯努力できる人間でありたいと思います。これから消防職員として働く中で様々な場面に直面すると思いますが、先輩方、そして同期の仲間がいる事を忘れず自分のモットーを貫き、あらゆる困難に立ち向かって乗り越えていきたいと思っています。まずは、半年間の初任科訓練の中で、現場でのヒューマンエラー防止を常に考えながら、一つひとつ確実に自分のモノにしていきたいです。消防士という夢が叶った今、これまでお世話になった方々や、生まれ育った故郷のために恩返しをする時だと思っています。1日も早く現場での仕事ができる様、何事にも精一杯頑張ります。



上村 武範
消防士

消防職員になる道のりは長く厳しいものでした。しかし、



池田 希美
消防士

「女の人が居てくれて良かった。」これは、私が救急隊員として初出場の現場で傷病者の女性に掛けられた一言です。女性のケガは軽傷でしたが、その方にとっては突然の出来事で大変動揺されていた。私は何をすれば良いのか分からず、ただ側に付いてあげる事しか出来なかったの

それでもあきらめず「消防士になる!」という夢を追い続け、その夢を叶えた時はとても嬉しかったです。これまで応援してくれた周りの方々、辛い時も支えてくれた家族にとっても感謝しています。自分が生まれ育った大好きなこの街を、今度は自分が支え守っていきたいと思います。4月から消防職員として働くことになりましたが、消防士は体力と精神的な強さも求められます。また、公務員としての自覚や責任ある行動が必要だと思っていますが、どんなに辛く苦しい時があっても、持ち前のガッツで目の前の困難にも向かっていこうと思います。まずは、消防学校初任科でしっかりと勉強していきたいと思っています。



中村 隼人
消防士

ですが、その方はそれでも安心したようでした。この時は、この道に進んで良かったと実感しました。今回、熊本に帰って来る事が出来、さらに今まで同様消防職員として働ける事を大変嬉しく思っています。再度、この時の言葉を思い出し、初心に帰って頑張ります。また、早く管内の地利水等を覚え、地域住民の方々と積極的に交流し、地域に密着した必要とされる職員になれる様努力いたします。

私はこの春、立派な消防士になるために、消防学校へ入校します。学校を卒業し3年間民間企業で働き、短い期間でしたが、貴重な経験をさせて頂きました。そこで学んだ、「相手の立場になって物事を考える。」ということを常に念頭に置き、職を全うしていければと思います。一刻を争う場面に遭遇しても、臨機応変に行動することで、少しでも住民の方々に安心を与えられることのできるよう努力していこうと思います。また、早く管内の地理に詳しくなり、危険箇所の把握に努めよ



小畑 憲司
消防士

うと思います。事故の被害を最小限に抑えることはもちろんですが、その事故を未然に防ぐ努力をしようと思えます。まずは、消防学校に入校し、現場に出ても立派に職務をこなせるよう、目の前の目標を一つずつ達成していけるよう頑張っていきます。

平成21年4月1日を持ちまして、宇城広域消防本部の消防官になりました。私は、今年の3月に大学を卒業したばかりの新社会人で、不安も沢山ありますが、自分が22年間、学校や部活動などで経験してきたものを生かしていきたい気持ちで一杯です。4月から熊本県消防学校に入校しますが、消防業務に必要な基礎的な知識や技能、そして気力と体力の錬成、消防官及び社会人としてのモラルやマナーを半年間でしっかりと研修し、身につけたいと思っています。まずは、消防学校初任科を、縁あって一緒になった同期の仲間たちと乗り越え、1日も早く現場に出た時に先輩方の足を引っ張ることがないように迅速かつ正確な判断ができる消防官を目指して頑張りたいと思います。

第32回熊本県 消防職員意見発表会



第32回目を迎えた「熊本県消防職員意見発表会」が天草市「ホテルアレグリアガーデンズ天草」で開催された。この大会は、消防職員が日々の職務に対する考えや活動を通しての意見を発表することにより、職員としての自覚と士気の高揚を図り、資質向上を目指す目的で行われている。今年の大会は、熊本県下13消防本部から14名が出場し、火災、救急、救助、予防など様々なジャンルから、日ごろの活動や考えを発表し、その発表内容や意見性及び発表力が審査された。本大会には、美里分署の岩本壮史消防士が宇城広域消防本部代表として出場し、「自助防災」というテーマで、「自分たちの地域には九州で一番大きな布田川日奈久断層帯が縦走しており、その規模、地震予知確率と想定規模は平成7年の阪神淡路大震災に匹敵している。阪神淡路大震災では、自助、共助が7割に達し消防などの公的機関による救出（公助）は2%にも満たなかったことから、自分の身は自分で守るという地域の連携は重要で、いつ災害が発生しても対応できるように備えておく必要がある」と発表し、審査の結果、最優秀賞は熊本市消防局の田中寿一士長の「赤い消火器」と決定し、5月15日（金）に佐賀市で開催される九州大会に熊本県代表として出場する。

5月の行事

日	曜	行 事	場 所	時 間
11	月	気管挿管講習	熊本県消防学校	22日まで
14	木	全国消防長会九州支部総会	佐賀市	13:30～17:30
15	金	九州地区消防職員意見発表会	佐賀市	10:00～12:00
20	水	所属長会議	本部会議室	09:45～11:00
22	金	宇城幼少年婦人防火委員会総会	本部会議室	14:00～15:00
26	火	消防殉職者慰霊祭	熊本県護国神社	11:30～12:30
28	木	全国消防長会総会	福岡市	

6月の行事

日	曜	行 事	場 所	時 間
2	火	第35回熊本県消防救助技術大会（陸上の部）	熊本県消防学校	09:00
4	木	水質事故対策訓練（城南町）	城南町（浜戸川）	13:30～
5	金	婦人防火教室（南署）	南消防署	09:30～14:00
9	火	潜水隊訓練	波多マリナ	09:00～12:00
10	水	宇城危協災害資材寄託式	本部会議室	13:30
12	金	シブバ防火教室	南消防署	09:30～14:00
19	金	所属長会議	本部会議室	09:00～12:00
25	木	幼稚園、保育園防火教室	南消防署	09:00～14:00
30	火	第35回熊本県消防救助技術大会（水上の部）	宇土市民プール	10:00～15:00

災害統計

	火 災	救 急	救 助
H21.4.30 現 在	23	2,009	18
昨 年 同 期	17	2,135	21
増 減 数	+6	-126	-3

思い愛（あい）

「固定観念」を見直そう！

本年度から女性消防職員（2名）が現場に配属され、男性職員と一緒に昼夜分かたず、消防業務に頑張っています。当消防本部も開署以来、男性職場であったため男性職員・女性職員もそれぞれに戸惑うことも多々あるかと思っています。男女共同参画とは、男女はお互いが持っていないところや出来ない部分を助け合い、ひとつの事を成し遂げる事だと考えます。私たち職員も、まずは相手の気持ちを思いやることで、現場活動がスムーズに行えるものと思います。今一度「おもいあい」について、一人ひとりが考えてみる機会ではないでしょうか。

百時足消防

（ひやくじしほしょうぼう）

全てのことは
消防に繋がる

年齢（よわい）50を前にして、広報担当を仰せつかり19ヶ月間、慣れない取材に悪戦苦闘しながら、息も絶え絶えに異動の時季を向かえました。一年半余の広報担当でしたが、平成19年11月には、建設計画当初から関わっていた南消防署の落成式があり、やつとここまで辿り着いたという安堵感の中でカメラのシャッターを切りました。平成20年4月には、宇城消防初となる2名の女性消防職員の採用など、僅かな期間に移り行く時代の変化を見る事ができました。また、年齢（よわい）50の消防職員でありながら、この年まで知らなかったことや気づかされたことも多々ありましたが、これらは今後の啓発の礎となりました。私が消防職員として奉職した30年前と現在を比較すると、火災件数の増減はさほどありませんが、これは消防団の成熟と幼少年婦人防火委員会などの自主防災組織の意識の高まりが大きく貢献していると思います。広域消防発足から今日までの時を経て、民間防災組織と消防の連携・協調は成熟期にありますが、住宅用火災警報器の設置義務化などは、そうした民間防火組織の方々と連携を今以上に密にし、さらには住民の皆様との信頼関係が求められます。救急についてはこの30年で約4倍の6,000件に増加する中、救急救命士を中心に様々な症例対応が求められ、職員は日々研鑽しています。19ヶ月の取材活動で一番強く感じたことは、そうした消防業務の多様化へ対応し続ける職員の姿でした。この編集後記に名づけた「百時足消防」は、消防人としての私の初心ですが、多様化する消防行政の中、一人ひとりの職員にも共通する言葉だと思っています。短い間でしたが、粗筆にお付き合います。短い間でしたが、粗筆にお付き合います。短い間でしたが、粗筆にお付き合います。

(K.I)